

一人暮らしで猫でもこれなら安

3匹の猫たちと暮らす吉本さんは、一人暮らし。大病を患った際に、猫たちに遺産が残せないことを知り、自分に万一のことがあった時のことを真剣に考え始めた。専門家と協議を重ねてできあがったのが「わんにゃお信託®」というサービスだ。どのようなサービスなのか、そして自身もペットを飼うお一人様高齢者として万一の際の心構えをうかがった。



吉本さんの愛猫。手前からピン、リーチ、ロン

配なくペットと暮らすことが出来るのか。知り合いの弁護士や司法書士などの専門家に相談して、話し合いを重ねました。そして、201

4年にNPO法人ペットライフネット(PLN)を設立し、ペットライフ信託システム「わんにゃお信託®」の運用を始めました。

世話をしてくれる人にお金を残すのではダメなのでしょうか

ペットに直接財産を遺

3匹、心

文◎松村理美
写真◎人羅秀二

ペットの信託サービス
NPO法人ペットライフネット(PLN)
代表 吉本由美子さん

今まで7匹の猫と暮らしてきた生粋の猫好き。あだ名は「にゃおさん」



猫は昔から飼ってらっしゃるのですか

子どもの頃、実家が食料品の卸しをやっていたので、ネズミ対策として猫は必需品でした。ペットではなかったけれど子どもだった私にはとにかくかわいくて。

猫を飼い始めたのは40歳少し前くらいからです。大学生の頃からずっと一人暮らしをしています。生活が落ち着いたのと自分の住まいになったので猫と暮らし始めました。

今はピン、ロン、リーチという3匹の猫と暮らしています。一番若いリーチで7代目ですが、全員が、捨てられていたり、飼えなくなったりして譲られた猫。お察しの通り、名前は麻雀からいただきます。先代猫もチュンとかハクとかナンとか、

そんな名前ですから(笑)。

「わんにゃお信託®」を始めたのは、病気をされたからだそうですね

常に複数の猫たちと楽しく暮らしていたんですが、2010年に大病をして、半月ほど入院しなければならなくなりました。当時うちにいたのは、ハク、ピン、ロンの3匹。幸いその時は知り合いが面倒を見てくれたのでよかったのですが、入院してはじめて、自分に万一のことがあった時のことを考えました。

もし私が先に逝ってしまったらこの子たちの面倒は誰が見てくれるんだろう。その時のお金は？不安になった私は猫たちに遺産を残そうと考えた

それを考えると高齢になってからペットと暮らすことを躊躇してしまいそうですね

日本でペットを遺棄する年代は、60歳以上が半数以上といわれています。その理由は、独居老人の突然死による遺棄、シニア層のペットの飼育疲れ、認知症発症による飼育放棄、老人ホーム入居による遺棄など、社会的な複数の要因が複雑に絡まり合っています。

私だって手立てをうたなければ、独居老人の突然死による遺棄になりかねない。でもどう対策したら、シニアが先々の心